

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2年	国語	論理国語	進学	2	具志堅・小平・河村
教科書	数研出版「論理国語」				
副教材	『708論理国語準拠ワーク』(数研出版), 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500三訂版』(いいずな書店), 『イラストとネットワークキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店), 『評論速読トレーニング1500』(数研出版)				
評価基準	観点① 知識・技能 ・漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についている。 ・文章構成の理解する(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)。 ・情報の扱い方を理解する(情報の重要度による整理、推論)。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力。 ・文脈を捉え、自分の知識を踏まえて文意を理解しようとする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・授業を聞き、与えられた課題、自分で発見した課題に取り組み、ノートの内容を工夫する。 ・グループワークやペアワークに積極的に参加して、他者と協働して問題解決を図ろうとする。 ・ワーク等の提出物をしっかりと管理し、成果物を提出する。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢(接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等)				
	観点② 演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)				
	観点③ ①予習②感想・まとめ ③課題(小テスト) ④授業姿勢(各5点)				
授業のねらい・進め方・注意点	文章を自力で正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。抽象的な概念の理解やそれに対応する具体例を自分の力で考えながら読解することができる力を身につける。語彙力を強化するために漢字テストを適宜実施する。また自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを理解するためにもペアワーク等には積極的な姿勢で臨むことを期待する。スケールテストやその先で求められる学力を身につけていく。				
家庭学習	学習内容と進め方	漢字『TOP2500』～P175(第二章重要語ランクCまで)を2周する。			
	学習の目安時間・分量	毎週「書き取り」4ページ分(「読み取り」の場合は8ページ分)を範囲として学習する。			
	学習状況の確認方法	毎週小テストを実施。また、定期考查において、教科書の文章内で該当する語や漢字について問いを設ける。			
	成績評価との関係	主に観点③の点数として評価するが、観点②における内容理解等にも反映され評価に影響する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	・必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする。 ・関心のある領域の新書等を積極的に読む。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	「手の変幻」	※漢字テスト第一回は4/11~4/18の間に実施します。範囲はP124~133までとなります。 逆説的な表現を理解する 近代の概念を理解する
	5	「弱いつながり」 ※漢字TOP2500 P 124~P 151 中間考査 『『内的成長社会』へ』	
	6	「胆力について」	
2	7	※漢字TOP2500P152~175 期末考査 ※適宜「評論速読トレーニング1500」を扱う	言語論を理解する 近代の概念を理解する
	4	「国境を超える言葉」 「未来世代への責任」 中間考査 「日本語は非論理的か」 「白紙」 ※適宜「評論速読トレーニング1500」を扱う	
3		『『安楽』への全体主義』	近代の概念を理解する
		※適宜「評論速読トレーニング1500」を扱う	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	地歴	地理総合	進学理系	2	野々村
教科書	【地総046-902】 帝国書院 『高校生の地理総合』 【地図046-901】 帝国書院 『新詳高等地図』				
副教材	帝国書院 『高校生の地理総合ノート』				
評価基準	観点① 知識・技能 基本的な知識を身に付け、その役割、有用性を理解しているか。地図、資料などから現代世界の姿を読み取る技能を身に付けているか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の国々はどのように結びついているのか、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかを、地図、資料を通して、多面的・多角的に考察し、表現しているか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。				
	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。</p>				
考査	<p>各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10</p>				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で学んだ事柄について理解している。				
	観点② 地図・資料、データなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。				
	観点③ 社会に関心を持ち、時事問題などを自ら知る姿勢を持つ。 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。				
授業のねらい・進め方・注意点	(ねらい)世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察し、国際理解を深めていく。また、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察し、安心できる社会を構築するためにどう行動するかを考えていく。 (注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に着けたらよいかを考えながら、授業を受けてほしい。				
家庭学習	学習内容と進め方	社会情勢に関心を持ち、日々のニュースと教科書の中の事柄を結び付けて考えられるように、様々な情報に触れるよう心掛けてほしい。			
	学習の目安時間・分量	1日10分以上、新聞やテレビなどのニュースに触れる時間をとること。ネットニュースだけでなく、オールドメディアなどの媒体も活用すること。			
	学習状況の確認方法	時事ニュースに関して不定期に小テストを行う。また、時事ニュースに関するレポートを長期休暇の課題として課す。			
成績評価との関係	提出物、課題、小テストは観点③として評価する。				
図書資料の活用等・探究へのつながり	新聞記事に関するレポート提出を課す。 図書資料の紹介を行う。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	地球儀と地図	地球上の位置と地上の現象 経度の違いと時差
	5月	地図と地理情報システム	球体と平面の世界 地図の種類 地理情報システムの利用
		現代世界の国家と領域 中間考査	国家の領域と国境 地図からみる日本の位置と領域
	6月	地図からみる国内や国家間の結びつき	国際機関・貿易・交通通信・観光
	7月	世界の地形と人々の生活 期末考査	生活と地形のかかわり 河川・海岸の地形 氷河・カルスト地形・乾燥地形
		2	9月
10月	世界の産業と人々の生活 世界の言語・宗教 中間考査	農業・工業 言語・宗教の多様性	
	11月	生活文化の多様性と地理的環境 東南アジア ヨーロッパ	季節風と生活文化 伝統の継承と生活文化
	12月	期末考査	
		3	1月
2月	気象災害と防災 自然災害への備え		
	3月	学年末考査	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学Ⅱ	進学文系	4	黒滝・屋名池
教科書	数研出版 最新数学Ⅱ				
副教材	数研出版 3ROUND 数学Ⅱ				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりする力を養う。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書、問題集の基本的な問題の類題から出題				
	観点② 教科書、問題集の応用的な問題の類題から出題				
	観点③ 普段の授業姿勢、課題の提出、小テストから判断				
授業のねらい・進め方・注意点	<p>ねらい) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>注意点) ノート・副教材(3ROUND)は毎時間準備してください。数学は毎日少しずつでも問題を解いてゆかねばなりません。課題または小テスト等については担当者の指示に従い、日々の復習に努めてください。</p>				
家庭学習	学習内容と進め方	授業のあったその日に学んだ内容の復習を行う。また、3日後、1週間ごと間隔をあけて復習を行うことで内容に対する理解度が向上する。			
	学習の目安時間・分量	その日に学んだ内容はその日に復習を行うことを目的とするため、短い時間でも構わない。ただし、解説を見て理解ができ、解答を作り上げることができる生徒はごく少数のため、必ず問題を解き、自分の解答が正しいのか間違っていたのか確認し、振り返りを行うこと。			
	学習状況の確認方法	教科書や問題集の復習についていつやったのか、できたのかを記録して客観的な視点を持つことが重要。また、課題の提出やスタディプラスへの書き込みにより、理解度の確認や継続性の認識を意識する。			
成績評価との関係	計画的かつ継続的に学習を行うことができれば数学の成績向上だけでなく、論理的思考能力を得ることができ、将来に向けて必要な力量を得る足掛かりになるため、成績評価に左右されることなく、学習に励んでいただきたい。				
図書資料の活用等・探究へのつながり	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 聖女の救済・東野圭吾 フェルマーの最終定理・サイモンシン				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書・副教材	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明
	5		第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式
	6		第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域
2	7		
	9	教科書・副教材	第4章 三角関数 第1節 三角関数
	10		第2節 加法定理
	11		第5章 指数関数と対数関数
12			
3	1	教科書・副教材	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法
	2		第2節 積分法
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学B	進学理系	2	佐竹・駒崎
教科書	最新数学Bおよび最新数学C				
副教材	3ROUND数学Bおよび数学C *参考書としては旺文社「総合的研究 数学II+B」を推奨				
評価基準	観点① 知識・技能 問題を解くための最低限の知識（基本的数列・シグマ記号の扱い・数学的帰納法の原理・漸化式・ベクトルの加減実数倍・基底による表示の一意性・内積etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ①に挙げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方・論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書、問題集の基本的な問題の類題から出題				
	観点② 教科書、問題集の応用的な問題の類題から出題				
	観点③ 普段の授業姿勢、課題の提出、小テストから判断				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜその式変形をするのか?」「なぜその定理・公式があるのか?」等を常に考えましょう。 ・理解だけでは不十分で、自由自在に知識を使える必要があります。そのためには「イメージで理解する」「すでにわかっている知識と新しい知識を連関させる」「自分で徹底的に反復する」ことが重要です。イメージや知識の連関は授業で補えますが、反復のためには自学が必要です。 				
家庭学習	学習内容と進め方	授業のあったその日に学んだ内容の復習を行う。また、3日後、1週間ごと間隔をあけて復習を行うことで内容に対する理解度が向上する。			
	学習の目安時間・分量	その日に学んだ内容はその日に復習を行うことを目的とするため、短い時間でも構わない。ただし、解説を見て理解ができ、解答を作り上げることができる生徒はごく少数のため、必ず問題を解き、自分の解答が正しいのか間違っていたのか確認し、振り返りを行うこと。			
	学習状況の確認方法	教科書や問題集の復習についていつやったのか、できたのかを記録して客観的な視点を持つことが重要。また、課題の提出やスタディプラスへの書き込みにより、理解度の確認や継続性の認識を意識する。			
	成績評価との関係	計画的かつ継続的に学習を行うことができれば数学の成績向上だけでなく、論理的思考能力を得ることができ、将来に向けて必要な力量を得る足掛かりになるため、成績評価に左右されることなく、学習に励んでいただきたい。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 参考書 ノート	数列とは 基本的数列の扱い シグマ記号 数列を式で説明するのが漸化式 数学的帰納法
	5	3ROUND	
	6		
2	7		ベクトルを点の移動としてイメージする ベクトルの和・差 ベクトルの拡大縮小=実数倍 ベクトルを具体的に説明したものが成分表示 基本的な移動の方向=基底 平面の基底は2つで良い 内積の計算 ベクトル方程式は軌跡のベクトル版
	9	教科書 参考書 ノート	
	10	3ROUND	
	11		
	12		
3	1	教科書 参考書 ノート	空間ベクトルも点の移動 成分表示は3つになる 基底も3つ必要 空間図形の方程式を得るのはベクトルが便利
	2	3ROUND	
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	数学	数学選択	進学理系	2	平田・佐竹
教科書	適宜プリントを用意します。				
副教材	1年次に使用した数学IAの教科書・問題集を用意してください。				
評価基準	観点① 知識・技能 ・定義の理解、公式を適用して基本問題が解ける。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・観点①に該当する基本問題を用いて、応用問題が解ける。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断する ・問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習レベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 10点				
授業のねらい・進め方・注意点	数学IAの復習を行います。重要なことは「概念をきちんと理解すること」です。1年次は概念の理解を放棄し「問題が解ければよい」と考えていた人がいたかもしれません。せっかくの学び直しの機会ですから、問題が解けることだけに満足せず概念の理解を試みましょう。また、数学IIBと同時並行で学ぶことにより、新たな気づきが生まれることもあります。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業のあったその日に学んだ内容の復習を行う。また、3日後、1週間ごと間隔をあけて復習を行うことで内容に対する理解度が向上する。			
	学習の目安時間・分量	その日に学んだ内容はその日に復習を行うことを目的とするため、短い時間でも構わない。ただし、解説を見て理解ができ、解答を作り上げることができる生徒はごく少数のため、必ず問題を解き、自分の解答が正しいのか間違っていたのか確認し、振り返りを行うこと。			
	学習状況の確認方法	教科書や問題集の復習についていつやったのか、できたのかを記録して客観的な視点を持つことが重要。また、課題の提出やスタディプラスへの書き込みにより、理解度の確認や継続性の認識を意識する。			
	成績評価との関係	計画的かつ継続的に学習を行うことができれば数学の成績向上だけでなく、論理的思考能力を得ることができ、将来に向けて必要な力量を得る足掛かりになるため、成績評価に左右されることなく、学習に励んでいただきたい。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	シュレーディンガーの少女・松崎有理 浜村渚の計算ノート3・青柳碧人 光秀の定理・垣根涼介				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	適宜プリント	数学Ⅰから適宜復習
	5		中間考査 2次関数
	6		期末考査
2	7		
	9	適宜プリント	三角比
	10		中間考査 データの分析
	11		数学A 場合の数
	12		期末考査
3	1	適宜プリント	確率
	2		図形の性質
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	化学基礎 化学	進学理系	化学基礎2 化学1	筒井
教科書	実教出版 化学基礎academia・化学academia				
副教材	アクセスノート化学基礎 エクセル化学(総合版)				
評価基準	観点① 知識・技能 化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。報告書を作成したり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付けている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 化学的な事物・現象に対して、主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする。また、科学的に探究しようとする。				
考查	【化学基礎】1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 【化学】1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① ・教科書の本文や参考、演習に記載された語句の意味を、どの程度理解しているか。 ・副教材の演習問題に習熟しているか、及び、類題が解答可能かどうか。				
	観点② ・教科書の論述問題などの問いに対して、意見を述べられるかどうか。 ・副教材の演習問題への習熟しているか、及び、類題が解答可能かどうか。				
	観点③ ・ノートや振り返りの中身に表れる意欲 ・実験レポート、調べ学習レポート等提出物の中身に表れる関心				
授業のねらい・進め方・注意点	・授業中は集中し、板書を資料に書き写し、適宜必要なことはメモを取る。 ・授業には積極的に参加し、不明点は質問をする。 ・知識を応用するための思考力を養うことが主な目的である。 ・AIの使用は、思考力の補助としてのみ認める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業資料で知識をインプットし、副教材で知識をアウトプットおよび応用力を身に付ける。副教材については、最低でも2周行い、わからない部分がない状態にする。			
	学習の目安時間・分量	毎回の授業ごとに約20～30分程度の復習は必要である。考查前は5～10時間程度で副教材を2周行う。			
	学習状況の確認方法	考查ごとに副教材を授業担当者に提出する。解答を写したのものについては評価の対象外となる場合がある。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	・「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス 戸田山和久				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	化学基礎2章	それぞれの化学結合の特徴と、その化学結合からなる物質とその性質を理解する。
		5 1節・2節 共有結合	
		3節 金属結合	
		4節 化学結合と物質	
	5	化学基礎3章	物質量の基本事項、物質量と溶液の濃度の関係を理解する。
		1節 原子量と分子量・式量 物質量 溶液の濃度	
6	7 2節	化学反応式	代表的な物質の化学反応を化学反応式で表現できるようにし、その量的関係について考察する。また酸と塩基の基本事項について理解する。
		酸と塩基 水素イオン濃度とpH	
2	9	中和反応と塩の生	中和反応について理解し、関与する物質について考察する。
		10 中和滴定	
		3節 酸化と還元 酸化剤と還元剤	
	11	酸化還元反応の起	酸化還元反応と日常生活・社会生活とのかかわり、実用電池について理解する。
		12 身のまわりの酸化	
		化学1章	
1	1節	状態変化	状態と平衡、粒子の熱運動について理解する。
3	1	2節 固体の構造	結晶構造について、基本的な知識を身につける。 ボイル・シャルル、気体の状態方程式を理解する。 溶液の性質について理解する。
		2 3節 気体の性質	
		3 4節 溶液	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	物理	進学理系	3	榎本
教科書	物理基礎 (物基703) 実教出版 物理 (物理702) 実教出版				
副教材	エクセル物理総合版 物理基礎+物理 実数出版				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>単元ごとの語句(名称や理論)の意味するところを正確に理解できる。</p> <p>公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。</p> <p>また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。</p>				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で取り扱った基本的な問題・語句等の知識問題				
	観点② 応用的な問題・初見の問題				
	観点③ 提出物・レポート・普段の取り組み・小テスト等				
授業のねらい・進め方・注意点	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。 クラスの状況を見て、適宜進度を変更する可能性があります。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業中に扱った問題と配布する演習問題を進める。 教科書や授業資料を振り返る。			
	学習の目安時間・分量	考査前までに、その範囲の問題を解く。 授業で取り扱った内容はその日のうちに取り組むのが望ましい。			
	学習状況の確認方法	考査期間の指定した日に理科室1に提出			
	成績評価との関係	観点③に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポートの作成や、大学過去問の演習の際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	物理基礎1章1節	速度と加速度	
		運動の表し方	等加速度運動と落体の運動	
	5	物理1章1節 平面内の運動	放物運動	
		物理基礎1章2節 力	力のつりあいと作用反作用	
	6	物理1章1節 剛体のつりあ	剛体にはたらく力	
		物理基礎1章3節	慣性の法則	
	7	運動の法則	運動の法則と運動方程式の活用	
2	9	物理基礎2章1節	仕事と力学的エネルギー	
		運動とエネルギー	力学的エネルギー保存	
	10	物理1章2節 運動量の保存	運動量と力積	
		物理基礎2章1節	運動量の保存	
	11	熱とエネルギー	衝突とエネルギー	
		熱とエネルギー	熱と温度、熱と仕事	
	12	物理1章5節	比熱と熱容量	
		気体分子の運動	気体の状態方程式	
	12	気体分子の運動	気体の内部エネルギー	
			気体の状態変化	
	3	1	物理基礎3章1節 波の性質	波の性質と波の表し方
			物理2章1節 波の伝わり方	重ね合わせの原理
2		物理基礎3章2節 音	音波と発音体の振動	
	物理2章2節 音	音の伝わり方とドップラー効果		
3	物理2章3節光	光の伝わり方とその性質		
		光の回折と干渉		
			レンズ	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	理科	生物	進学理系	3	笛木
教科書	「生物基礎」「生物」第一学習社				
副教材	「リード生物基礎」第一学習社、「セミナーノート生物」第一学習社 「スクエア最新図説生物」第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関するレポートを作成する。 必要に応じて小テストを実施する。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、テストは100点満点で表記する。観点③は20点分 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書および図説の内容の理解の確認。各テスト50点分				
	観点② 内容の理解や応用的な力の獲得の確認。各テスト50点分				
	観点③ 提出物やレポート点により評価。				
授業のねらい・進め方・注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか?に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。 進度・状況に応じて授業で取り扱う順番を変更する可能性がある。				
家庭学習	学習内容と進め方	問題集を最低1周、可能な限り2周解くこと。まるつけも各自行う（提出もあり）			
	学習の目安時間・分量	定期考査前までの試験範囲の問題を解く。授業でやった範囲までをノートの見直しを授業日に10分ほど振り返り、該当分野を次の授業までに解いておくこと。			
	学習状況の確認方法	ノートおよび問題集を定期考査最終日に教科担当に提出			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポートの作成や入試過去問に取り組む際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容		
1	4	教科書「生物基礎」	1節 情報の伝達と体内環境の維持		
		3章 ヒトのからだの調節	2節 免疫		
	5	4章 植生と遷移	1節 植生と遷移		
			2節 バイオーム		
	6	5章 生態系とその保全	1節 生態系と生物の多様性		
			2節 生態系のバランスと保全		
			7		
2	9	教科書「生物」	教科書「生物」		
		1章 生物の進化	1章 生物の進化		
	10	2章 生物の系統と進化	2章 生物の系統と進化		
			11	3章 細胞と分子	3章 細胞と分子
					2. タンパク質の構造と性質
3. 生命現象とタンパク質					
12					
3	1	教科書「生物」	1. 代謝とエネルギー		
		4章 代謝	2. 炭酸同化		
		2	3. 異化		
3					

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	保健	進学理系	1	保健体育科
教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。				
考査	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題				
	観点② 授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題				
	観点③ ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含）レポート提出				
授業のねらい・進め方・注意点	○環境問題において知識理解を深めるとともに今後の生活の中で学んだことを理解して日々の生活に生かせるようにする。 ○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。 ○テストについては各学期末に行う。 ○各学期にノートの確認を行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	右記、授業計画の内容をもとに授業を実施する。分からない内容があれば、各自で復習すること。			
	学習の目安時間・分量	教科書やノートの内容を理解するまで。			
	学習状況の確認方法	定期考査もしくは授業内でノートの提出。 ※担当者からの指示を確認すること。			
	成績評価との関係	観点3			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	必要があれば提示	3単元 01.ライフステージと健康 02.思春期と健康 03.性意識と性行動の選択 04.妊娠・出産と健康 05.避妊法と人工妊娠中絶 06.結婚生活と健康 ◎ノート提出 ☆期末考査
	5		
	6		
2	7	必要があれば提示	4単元 01.大気汚染と健康 02.水質汚濁・土壌汚染と健康 03.環境と健康にかかわる対策 04.ごみの処理と上下水道の整備 05.食品の安全性 06.食品衛生に関わる活動 ◎ノート提出 ☆期末考査
	9		
	10		
	11		
3	12	必要があれば提示	2単元 01.事故の現状と発生要因 02.安全な社会の形成 03.交通における安全 04.応急手当の意義とその基本 05.日常的な応急手当 06.心肺蘇生法 ◎ノート提出 ☆期末考査
	1		
	2		
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	保健体育	体育	進学理系	3	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点①	体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる ※3学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価			
	観点②	観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける			
	観点③	観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける			
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。			
	学習の目安時間・分量	それぞれの技能に応じる。			
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	必要があれば提示	○オリエンテーション ※新学期・実技指導・内容説明 ○新体力テスト
			【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
			【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
2	9 10 11 12	必要があれば提示	【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
			【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
			【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
			【グラウンド・体育館・柔道】持久走
3	1 2 3	必要があれば提示	【ダンス】 ・3年次体育祭ダンス発表振り付け指導 ※実技テストも行う。

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	芸術科	音楽II	進学	1	溝口 佳洋
教科書	MOUSA2 (教育芸術社)				
副教材	なし				
評価基準	観点① 知識・技能 <small>【知識】</small> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解している。 <small>【技能】</small> ・創作工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付け、歌唱、演奏、創作で表している。 ・曲にふさわしい服装、言葉の発声、身体の正しい姿勢を身に付けている。(歌唱) ・他者との調和を意識して演奏する技術を身に付けている。(演奏) ・反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技術を身に付けている。(創作)				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚している。 ・それらの働きを感じながら、知覚した事と感受したこととの関わりについて考えている。 ・どのように表すかについて表現意図をもっている。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
考查					
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 【3観点の比率と算出法】 観点①50% 観点②20% 観点③30%				
テスト・評価の内訳	観点① <ul style="list-style-type: none"> ・ 創作物の提出 (50点) ※内訳は学期によって変動する可能性あり 				
	観点② <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシート (10点) ・ 鑑賞シート (10点) ※内訳は学期によって変動する可能性あり 				
	観点③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度や他者との協働 (15点) ・ 自己評価シート等 (15点) ※内訳は学期によって変動する可能性あり 				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団で活動する内容も多いため、一人ひとりの協力的な雰囲気づくりが重要。 ・ 作品提出や演奏の練習では、自らを分析的に客観視し、こだわりを持って追及する。 ・ 文化祭での発表を経て、「達成感」が得られるように活動していく。 				
家庭学習	学習内容と進め方	自宅での学習課題を多く課す予定はないが、授業内で終えることができなかった提出課題を、自宅で行ってくることを求める場合がある。			
	学習の目安時間・分量	レポート課題や創作物に関しては、自らが納得のいくレベルまで突き詰めることが本質であるため、それに必要な時間は人それぞれである。自宅での活動は「延長活動」であるため、納得がいくまで時間をかけてほしい。			
	学習状況の確認方法	レポートの提出内容			
	成績評価との関係	「テスト・評価の内訳」に準じて成績に反映する			
図書資料の活用等・探究へのつながり	学期ごとに提出レポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。また、音楽の世界をあらゆる角度から知ることは、授業だけでなく人生においても役立つことが多い。課題に限らず積極的に活用してほしい。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プリント	歌唱 「校歌」「生徒歌」
	5・6	iPadアプリ	Garageband作曲 ・入力練習・聴音 ・メロディー作り
	7	iPadアプリ	Garageband作品提出
2	9	iPadアプリ	文化際準備 Garageband作曲
	10	プリント	鑑賞 「ピアノの森」(予定) レポート提出
	11	プリント	ミュージックベル練習 ミュージックベル発表
3	1	プリント	合奏 パート決め 譜読み・練習
	2		合奏の完成、動画提出

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	芸術	美術II	進学理系	1	小西
教科書	高校生の美術2（日本文教出版）				
副教材	なし				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>知識：造形要素の働きの理解、イメージや作風、様式などでとらえることへの理解</p> <p>技能：材料や用具を生かす技能、創造的に表す技能/創造的に思考・判断・表現するための言語を使用する基礎的な技能</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>主題の生成、発想、創造的な表現を構想する能力/創意工夫を思考し取捨選択する能力（制作）</p> <p>造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働き、美術文化などについて考え、伝える能力（鑑賞）</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的に美術の幅広い活動に取り組む態度</p>				
考査	なし				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する				
テスト・評価の内訳	<p>観点① 知識・技能（50点）</p> <p>小テスト5点、美術の基礎的な言語技能5点、作品40点</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力（20点）</p> <p>構想メモ、制作中の振り返りWS（ワークシート）、鑑賞WS</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>提出物10点、積極性10点、制作前の鑑賞WS&制作終了後の振り返りWS10点</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。				
家庭学習	学習内容と進め方	小テスト対策。基礎知識を身に付け、制作活動に活かすことを目指しましょう。作品のアイデアは事前に考えて、制作時間をロスしないようにしましょう。			
	学習の目安時間・分量	小テストは15分程度あれば十分に復習可能です。アイデアは考える方法を事前に示します。			
	学習状況の確認方法	小テストは授業内で実施します。（1、2学期各2回。3学期1回。）アイデアは構想メモWSに記述します。			
	成績評価との関係	小テストは観点①の評価に加え。アイデア（構想メモ）は観点②に加え。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	授業時に美術や芸術に関連する書籍を紹介する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書、WS（ワークシート）	シュルレアリスム絵画の鑑賞
	5	構想用WS	シュルレアリスム絵画の制作
	6	アクリルガッシュ、メディウム、油彩用具など	
		WS	生徒作品の鑑賞、振り返り
2	9	教科書、WS	デザインとは何かを学ぶ（鑑賞）
	10	構想用WS	生活を良くするためのデザインを構想する
	11	ケント紙を使用、もしくはibisPaintを使用	ポスターにまとめる
3	1	教科書、WS	水墨画の鑑賞
	2	墨など	水墨画の制作
		WS	生徒作品の鑑賞、振り返り

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	芸術科	書道Ⅱ		1	佐藤敦子
教科書	書道Ⅱ・大修館書店				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に書の幅広い活動に取り組み、主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を書を通して心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。				
考查					
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する (3観点の比率と算出法) 観点①50% 観点②20% 観点③30%				
テスト・評価の内訳	観点① 作品評価40点 鑑賞文 書道史学習 書風の比較 10点				
	観点② レポート・理論テスト 10点 観点の書き込み 工夫 及びグループ学習 10点				
	観点③ 課題提出状況 10点 授業態度（作品レベル向上、グループ学習への取り組み）15点 自己評価5点				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・素直に柔軟に自分の身に取り入れるつもりで学習し、充実した時間に する。 ・良い作品に対するこだわりを捨てない。 ・作品制作の雰囲気作りに心がける。 ・大東文化大学主催全国書道展、文化祭芸術展への出品。 				
家庭学習	学習内容と進め方	ほぼ毎回classroom配信する動画を授業前に見ておく。レポート作成は自宅等で行う。筆記テストに向けて学習しておく。			
	学習の目安時間・分量	毎回の動画視聴は10分程度。レポート、テストの準備は一週間ほど毎日30分学習。			
	学習状況の確認方法	作品およびレポート、筆記テストの採点。			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポート作成において図書館にある書籍を紹介する。 書道室に配架されている図書館の書籍を資料として活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス 教科書p4～	篆書の学習 石鼓文
	5	教科書p20～	隸書の学習 乙瑛碑
	6	創作	居延漢簡 書道展出品用作品制作 文化祭作品制作 レポート課題
2	9	教科書p30～	草書の学習 書譜
	10	教科書p36～	行書の学習 集王聖教序 争坐位稿 楷書の学習 孟法師碑
	11	創作	レポート課題
3	1	教科書p58～	仮名の学習 高野切第一種
	2	創作 教科書p80～	漢字仮名交じりの書の学習 レポート・テスト

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	外国語	論理・表現Ⅱ	進学	3	猪瀬・草地・東牧原・濱井
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)				
副教材	英文法入門10題ドリル (駿台文庫)				
評価基準	観点① 知識・技能 *教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 *①で習得したものをベースに、英検レベルの英文が書けている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 *授業内のアウトプット活動に参加できている。自主的に復習を行えている。 *授業で扱えなかった範囲の問題等を、自分で取り組んでいる				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① ・空所補充 ・部分和訳、英訳、会話組み立て				
	観点② ・教科書ベースの総合問題 ・パラグラフライティング				
	観点③ ・レシピーの実施状況 ・小テストの実施状況				
授業のねらい・進め方・注意点	論理・表現Ⅰの授業で学んだことをライティングベースでできるようにする 小テストで各講の復習をすることで、文法や表現の知識の定着を図る。 そこから英検ライティングに対応できる表現力を身に着ける				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で取り扱った例文を主に復習する。意味が分かった状態での音読、並べ替え、和文英訳に取り組む。EXERCISES問題の復習に積極的に取り組む。			
	学習の目安時間・分量	最低でも30分程度は実施。授業当日・週末・考查前など、内容を忘れそうになった頃に復習を繰り返すことが望ましい。			
	学習状況の確認方法	音読の実施状況はレシピーの配信課題で確認。その他授業内で例文確認テストを実施する。また、定期考查で定着度を測る。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて各自で活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	第1～6講	第1文型(SV) SVO to (V)原形
	5		第2文型(SVC) 第3文型(SVO) 第4文型(SVOO) 第5文型(SVOC)
		中間考査	
1	6	第7・8、12～14講	SVO(V)ing SVO原形 不定詞 (名詞的用法) 不定詞 (形容詞的用法) 不定詞 (副詞的用法)
	7	期末考査	
2	9	第16～21講	動名詞 分詞の形容詞的用法 分詞構文①② 名詞節①②
	10	中間考査	
		第23～29講	関係詞節①②③④⑤ 副詞節 比較①
	11		
2	12	期末考査	
3	1	第30～36講	比較②③ 時制 完了形 助動詞 仮定法 強調・否定
	2		
	3	学年末考査	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	外国語	English Communication II	進学クラス	4	藤本・増村
教科書	FLEX English Communication II				
副教材	英単語 Target 1400 (旺文社)、レシピー (POLYGLOTS)				
評価基準	観点① 知識・技能 *教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 *①で習得したものをベースに、応用問題が解けている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 *授業内のオーラル活動、音読テスト、家庭学習用の課題に取り組んでいる				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① *教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできているかを問う				
	観点② *①で習得したものをベースに、応用問題が解けるかを問う				
	観点③ *授業内のオーラル活動、音読テスト、家庭学習用の課題に対する取り組み状況				
授業のねらい・進め方・注意点	・授業内での活動を通して、英語の4技能（Listening, Reading, Writing, Speaking）を総合的に育成する。 ・各レッスン、音読テストを行う。・iPad / schoolTaktで授業を行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	①単語・熟語の理解・定着 ②チャンクの音読・暗唱 ③本文の復習 ④レシピー課題を期限内に実施し、提出する ⑤ターゲットの単語を覚える			
	学習の目安時間・分量	1日1時間：上記①～⑤を行う。④に関しては期限内に提出できるように余裕をもって取り組む。⑤に関しては、DFTや試験範囲以外にも自主的に学習する。			
	学習状況の確認方法	②は音読テストを実施 ④は期限内にオンライン上で提出 ⑤はDFTや定期考査 ①～⑤に関しては定期考査で日ごろの成果を確認			
	成績評価との関係	②と④については観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり	洋書を読むことで、語彙力や読解力を伸ばす。また、英語参考書を使用し応用力を伸ばす。 志望校の赤本を見て、出題形式を分析する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	FLEX English Communication II	Lesson 1
	5		Lesson 2
	6		Lesson 3
	7		Lesson 4
			※ネイティブ教員によるアクティビティも実施
2	9	FLEX English Communication II	Lesson 5
	10		Lesson 6
	11		Lesson 7
	12		Lesson 8
3	1		Lesson 9
	2		Lesson 10
	3		
			*記載内容に関しては、状況によって変更する可能性もあり。

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
2	家庭	家庭基礎	進学文系	2	矢部・青柳
教科書	ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 教育図書				
副教材	家庭科55デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ 教育図書				
評価基準	観点① 知識・技能 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を習得するとともに、それらに係る技能を身に付けられたか。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、課題設定、解決策の構想、実践の評価・改善等、生涯を見通して課題を解決する力が養われたか。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとする気持ちを育むとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度が養われたか。				
考查	1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施 上記考查(実技含む) 全て、観点①45点+観点②45点+観点③10点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2・3学期:観点①(筆記35点+実技10点) + 観点②(筆記35点+実技10点) + 観点③ 10点 ※実技課題は学期によって異なるものが出題される。				
テスト・評価の内訳	観点① 筆記点(教科書、資料集、プリント等から出題)、実技点(野菜の切り方テスト等)				
	観点② 筆記点(教科書、資料集、プリント等から出題)、実技点(作品等)				
	観点③ ロールプレイング発表、課題・レポート提出等				
授業のねらい・進め方・注意点	家庭科では、生涯を通してよりよく生きるために必要な知識・技能を習得し活用できる力の育成とよりよい社会の構築に向けて主体的に生活を創造する力の育成を目指しています。 生徒一人ひとりが自ら生活をつくる主体であることを実感できるように、様々な分野に着目しながら授業を展開したいと考えています。				
家庭学習	学習内容と進め方	教科書の特性として、毎日の生活での経験や体験(自分が日々感じていること)が学びにつながる。日頃の興味・関心・疑問はその都度、消化・解決しながら過ごしてほしい。			
	学習の目安時間・分量	卒業後、自立して生活するには特に衣・食・住に関しては、他者に助けを求めず、自力で解決することが大切である。そのためには繰り返し経験を積むことが望ましい。			
	学習状況の確認方法	生活の中で困難な場面に遭遇した時に、習得した知識・技術が発揮できれば良いと考える。			
	成績評価との関係				
図書資料の活用等・探究へのつながり	・暮らしの手帖 ・栄養と料理				

授業の計画

学期	月	教材(教科書)	内容
1	4月	生涯の生活設計	・人は一生発達する ・これからのライフイベント ・人生の課題を解決しよう ・自立への一歩を踏み出そう ・家族 家庭とは？ ※冊子(お部屋探し&一人暮らしガイド)使用
	5月	青年期の自立と家族・家庭	
	6月	住生活と住環境	・住まいの役割 ・平面図の読み方 ・これからの快適な暮らし方 ※冊子(お部屋探し&一人暮らしガイド)使用
	7月	子どもの生活と保育	・子どもの成長の特徴 ・調理実習(幼児のおやつ) ・親の役割と子どもの生活習慣
		期末考查	作品提出
2	9月	高齢期の生活と福祉	・高齢者の心身の変化 ・高齢化の現状と課題
	10月	食生活と健康①	
	11月	実技テスト (野菜の切り方テスト) 食生活と健康②	・生活習慣と食事 ・現代の食事 ・栄養素の分類と食品 ・食品の選び方(加工食品の表示) ・調理実習(郷土料理) ・テーブルマナーを知る
	12月	食生活と健康③	・調理実習(クリスマスケーキ) ・食文化を継承しよう
		期末考查	
3	1月	消費生活と経済計画①	・消費者と意思決定 ・契約の重要性 ・多様化する支払方法と返済方法
	2月	消費生活と経済計画②	・さまざまな消費者問題 ・消費者を守るしくみ
	3月	グループ発表・課題提出 学年末考查	・消費者の権利と責任 ・消費生活と経済のつながり

二年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>二年次では、一年次に身につけた基礎をもとに、自らの興味・関心に基づく個人探究を行い、自身や学問分野への理解を深める。日常のゼミ活動や中間発表、最終発表会等で得たフィードバックを生かし、探究内容の深化を図る。三学期には、自身の進路につながる探究テーマを考える。</p> <p>一学期 自らの興味・関心に基づく個人探究のテーマ(課題)を設定する。 二学期② 探究成果発表会に向けて個人探究を進める。 三学期 自身の進路につながる探究テーマ(課題)を設定する。</p>
教材教具	<ul style="list-style-type: none"> □ iPad □ Benesseキャリアナビ・プログラム(オンライン) □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	<p>自らの興味・関心に基づく個人探究のテーマを設定する。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定の方法を確認する。 2. 自分の興味・関心に向き合う。 3. 図書資料を活用し、予備調査を行う。 4. 自分の興味・関心に基づき課題設定を行う。ゼミ活動を始める。 5. 情報収集の方法を知る・選ぶ。図書資料による文献調査は必ず行う。 6. 情報収集を行う。アンケート/インタビュー/実験/観察/現地調査を必ず行う。
夏休み	情報収集を継続する。スライドを作り始める。
二学期	<p>探究成果発表会に向けて個人探究を進める。ゼミ活動で内容を深化させる。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整理分析する。 2. まとめを行う。成果物作成の際は、参考・引用文献を必ず記載する。 3. 中間発表(スライド)を行い、フィードバックを得て振り返りを行う。 4. フィードバックを元に改善や、追加調査を行う。 5. 論文の作成方法を理解し、論文を作成する。 6. ゼミ内で論文を添削する。 7. 可能であれば、外部コンテストや発表会に挑戦する。

三学期	<p>探究成果発表会を行う。自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考える。</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 探究成果発表会に向けてポスター作成を行う。 2. 3学期中に探究成果発表会を行う。 <p>【探究成果発表会について】 同学年・低学年生徒、教職員、保護者、大学教授等に向けて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 発表会で得たフィードバックをもとに、論文を修正し、完成させる。 4. 自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考える。
春休み	引き続き、自身の進路につながる探究テーマ(課題)を考え、三年次につなげる。

授業のねらい・注意点	
ねらい	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、 自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを行う。ゼミ活動を行いながら協働的に学ぶ。 ・自己を知り、社会を知り、将来につなげる。 ・記録を残し、成果物を作成する。

個人探究における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>※二年次は個人での探究の機会が増えるが、ゼミ活動や発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゼミ内で、複数名のグループに分かれる。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、質問や+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を繰り返し、多角的・多面的な視野や多様な価値観を得る。 ⑤話し手は、不足している視点を改善したり、追加で「情報収集」したりする。 ⑥改善した上で、また③～⑥を繰り返していく。 	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 質問やアイデアがあることを本人に伝える。 その際は、非難にならないように注意。 良いところも伝える。 会話の流れを記録し、さかのぼれるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は、「物事を多面的に視る」という点である。個人探究においても、「気づき」を促すアドバイスを送り合い、他者の学びに貢献することが重要。</p>